



2016年6月期末

決算説明会

2016/08/24





目次

1. 決算の概要	3
2. セグメント別状況	19
3. 中長期的視野に立った経営方針	24
4. 2017年6月期（第59期）の見通し	47

【本資料についてのご注意】

- ・ 本資料の記載金額は原則、百万円未満を切り捨てて表示しております。
- ・ 本資料に記載されている将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。
- ・ 本資料に記載されている会社名、システム名、製品名は、一般に株式会社構造計画研究所ならびに各社の商標または登録商標です。



決算の概要



決算ハイライト

各利益が前事業年度、計画を上回る

(単位：百万円)

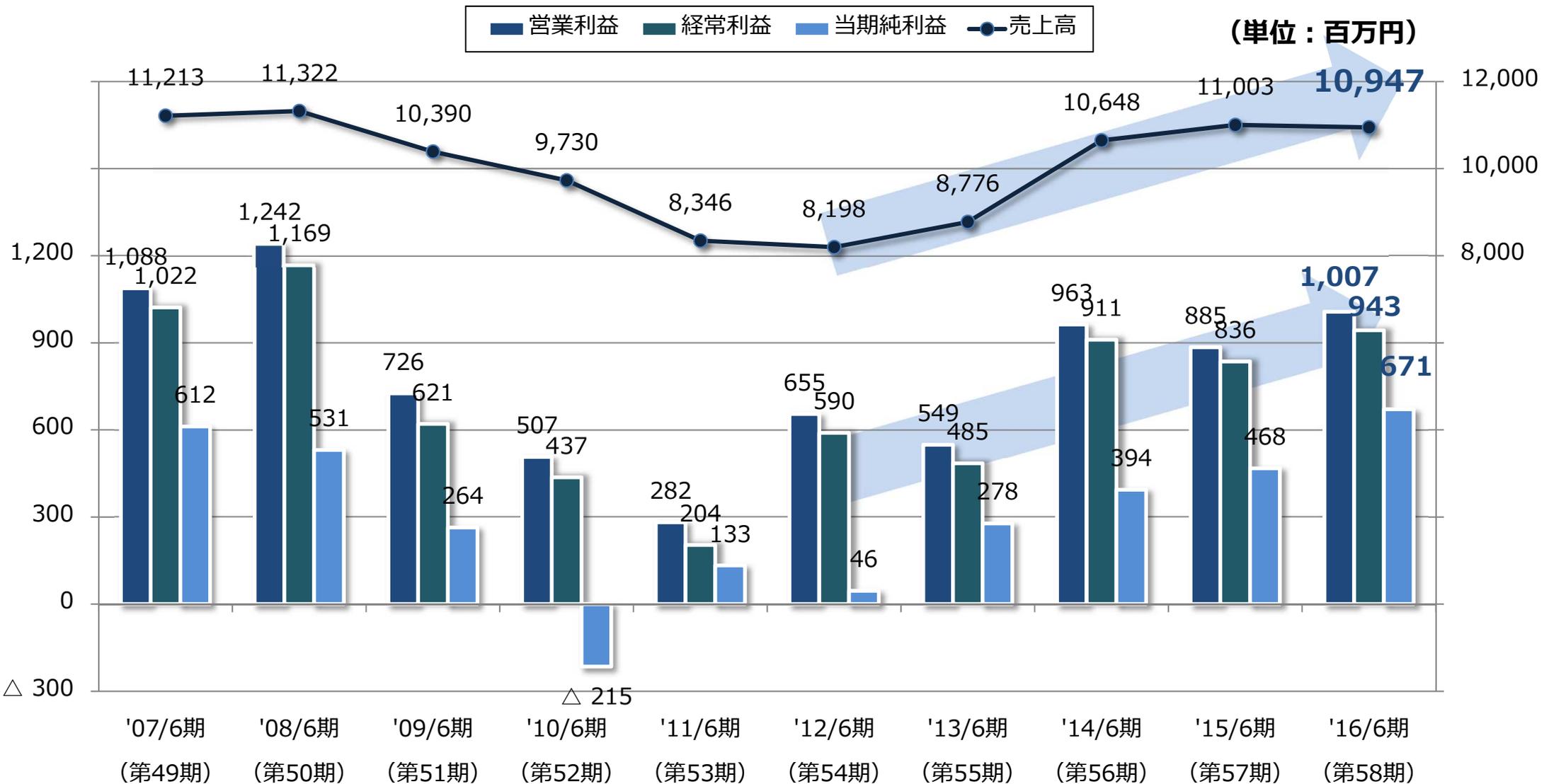
	'15/6期 (第57期)	'16/6期 (第58期)		対計画増減額 (増減率)	対前期増減額 (増減率)
		計画※	実績		
売上高	11,003	11,400	10,947	△452 (△4.0%)	△56 (△0.5%)
営業利益	885	1,000	1,007	7 (0.8%)	122 (13.8%)
経常利益	836	940	943	3 (0.3%)	106 (12.8%)
当期純利益	468	590	671	81 (13.8%)	202 (43.3%)
配当金	@40円/株	@45円/株	中間：@15円/株 期末：@40円/ (予定)		

※計画につきましては2015年8月13日付にて発表した業績予想の値を表示しております。



過去10年間の業績推移

4期連続成長、当期純利益は過去最高



損益計算書ハイライト

(単位：百万円)

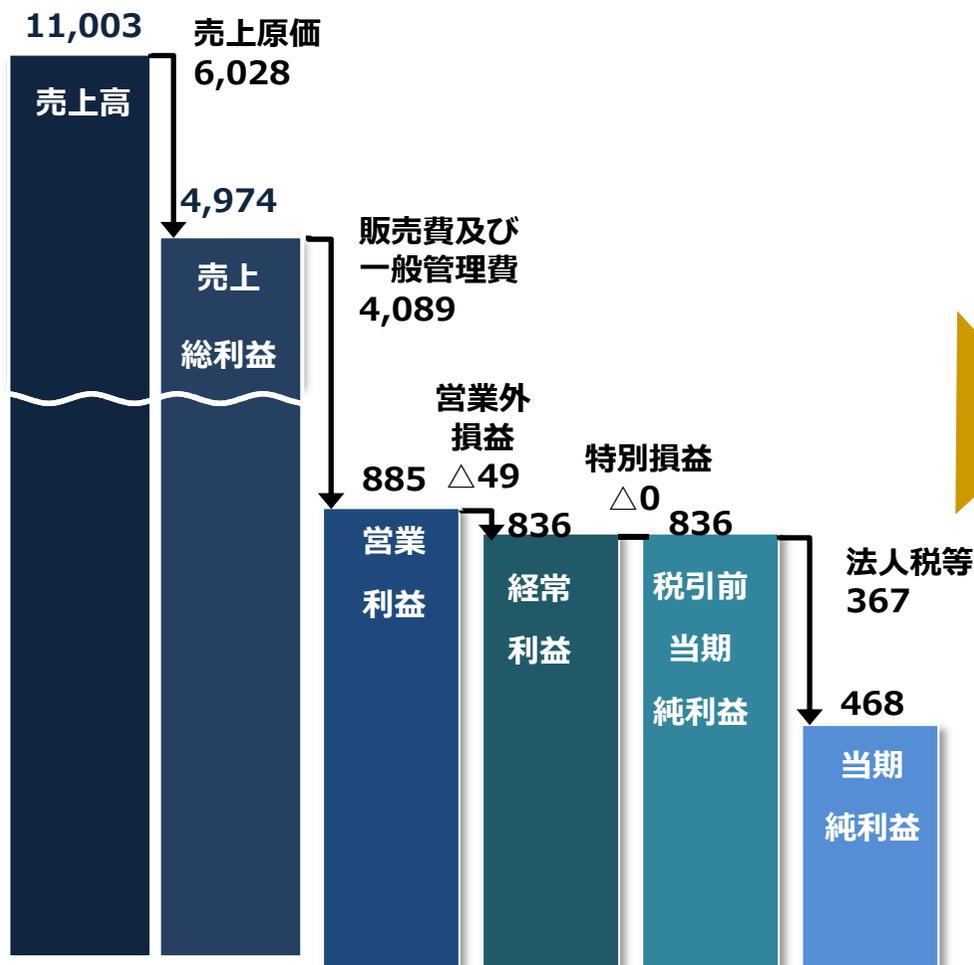
	'15/6期 (第57期)	'16/6期 (第58期)	対前期増減額	対前期増減率
売上高	11,003	10,947	△56	△0.5%
売上原価	6,028	5,568	△459	△7.6%
売上総利益 (売上総利益率)	4,974 (45.2%)	5,378 (49.1%)	403	8.1%
販売費及び一般管理費	4,089	4,370	281	6.9%
営業利益 (営業利益率)	885 (8.0%)	1,007 (9.2%)	122	13.8%
営業外損益	△49	△64	△15	-
経常利益 (経常利益率)	836 (7.6%)	943 (8.6%)	106	12.8%
特別損益	△0	△1	△1	-
税引前当期純利益	836	941	105	12.6%
法人税等	367	270	△97	△26.5%
当期純利益 (当期純利益率)	468 (4.3%)	671 (6.1%)	202	43.3%



損益の状況

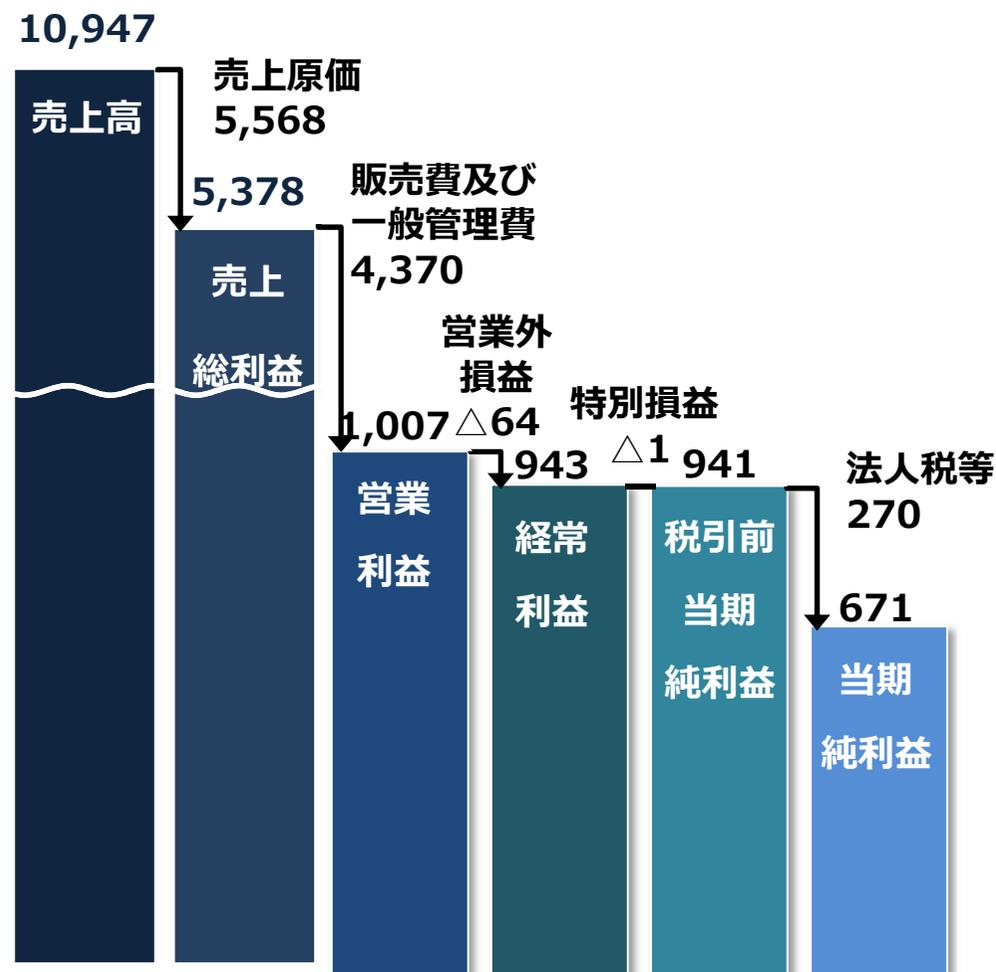
各利益が前年同期と比べ増加

2015年6月期 (第57期)



2016年6月期 (第58期)

(単位：百万円)





貸借対照表ハイライト

投資の増加により資産が増加 借入金の長短借換による財務体質の健全化

(単位：百万円)

		'15/6期 (第57期)	'16/6期 (第58期)	対前期 増減額
流動資産合計		3,338	3,532	194
	現金・預金	316	385	69
	売掛金	1,608	1,367	△241
	仕掛品	432	990	557
固定資産合計		6,614	6,927	313
	関係会社株式	261	393	131
	関係会社出資金	33	178	145
資産合計		9,953	10,460	507

		'15/6期 (第57期)	'16/6期 (第58期)	対前期 増減額
負債合計		6,797	7,321	524
	流動負債	4,848	3,713	△1,134
	短期借入金※	1,820	1,193	△626
	固定負債	1,948	3,607	1,658
	長期借入金	172	1,740	1,568
純資産合計		3,156	3,139	△16
	繰越利益剰余金	2,526	2,946	419
負債・純資産合計		9,953	10,460	507

※ 「1年内返済予定の長期借入金」は短期借入金に含めて計算しております。

財政の状態



2015年6月期（第57期）B/S

総資産：9,953 (単位：百万円)
負債+純資産：6,797+3,156

流動資産 3,338	流動負債 4,848
現・預金 316	短期借入金 1,700
売掛金 1,608	
仕掛品 432	
固定資産 6,614	固定負債 1,948
関係会社株式 261	長期借入金 172
関係会社出資金 33	退職給付引当金 1,666
	純資産 3,156
	繰越利益剰余金 2,526
	自己株式△1,684

有利子負債
2,050

2016年6月期（第58期）B/S

総資産：10,460 (単位：百万円)
負債+純資産：7,321+3,139

流動資産 3,532	流動負債 3,714
現・預金 385	短期借入金 750
売掛金 1,367	
仕掛品 990	
固定資産 6,927	固定負債 3,607
関係会社株式 393	長期借入金 1,740
関係会社出資金 178	退職給付引当金 1,755
	純資産 3,139
	繰越利益剰余金 2,946
	自己株式△2,234

有利子負債
2,990

資産の変化（507百万円）

- **流動資産の増加（194百万円）**
現金及び預金の増加（69百万円）
売掛金の減少（△241百万円）
仕掛品増加（557百万円）
- **固定資産の増加（313百万円）**
関係会社株式の増加（131百万円）
関係会社出資金の増加（145百万円）

負債の変化（524百万円）

- **流動負債の減少（△1,134百万円）**
短期借入金の減少（△950百万円）
- **固定負債の増加（1,658百万円）**
長期借入金の増加（1,568百万円）
退職給付引当金の増加（88百万円）

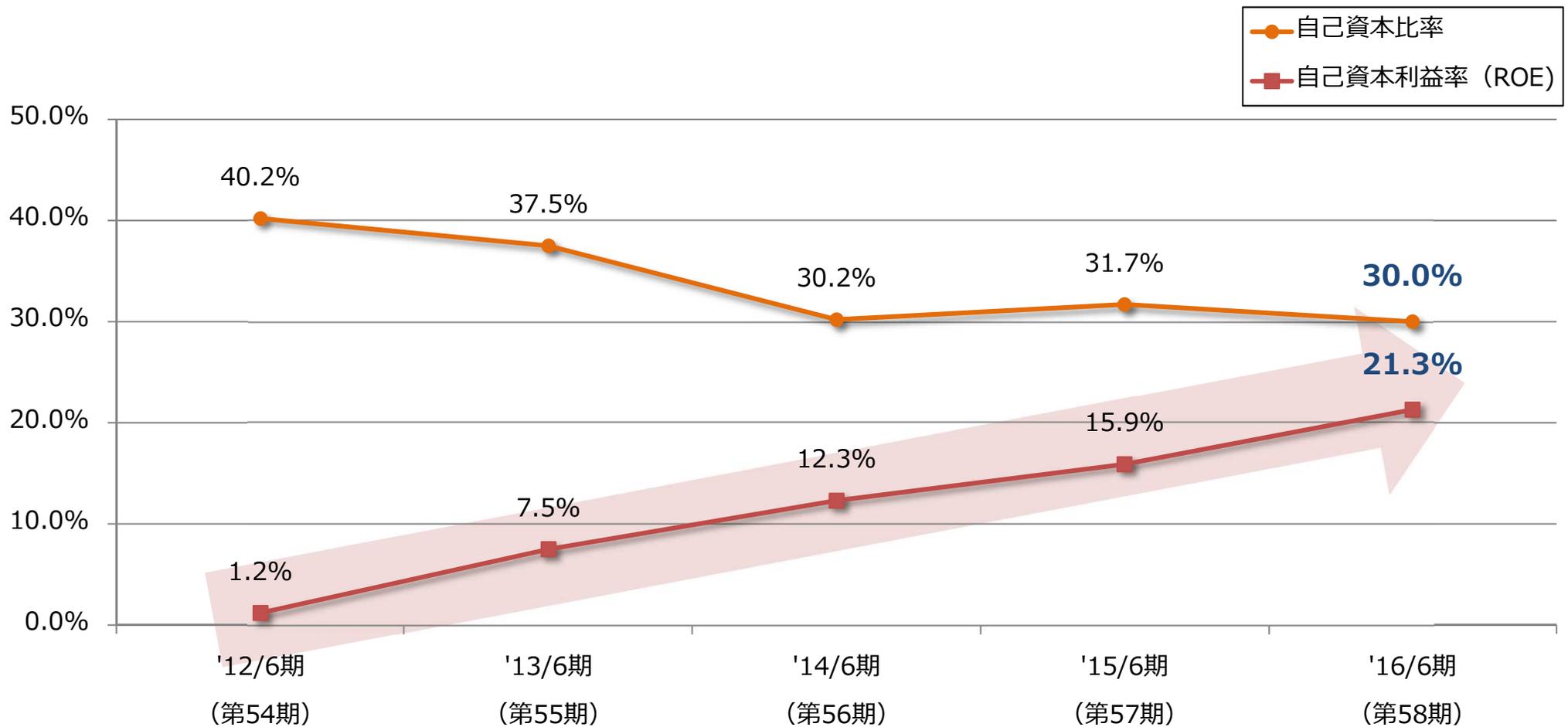
純資産の変化（△16百万円）

- 繰越利益剰余金の増加（419百万円）
自己株式の増加（△549百万円）



自己資本比率と自己資本利益率（ROE）の推移

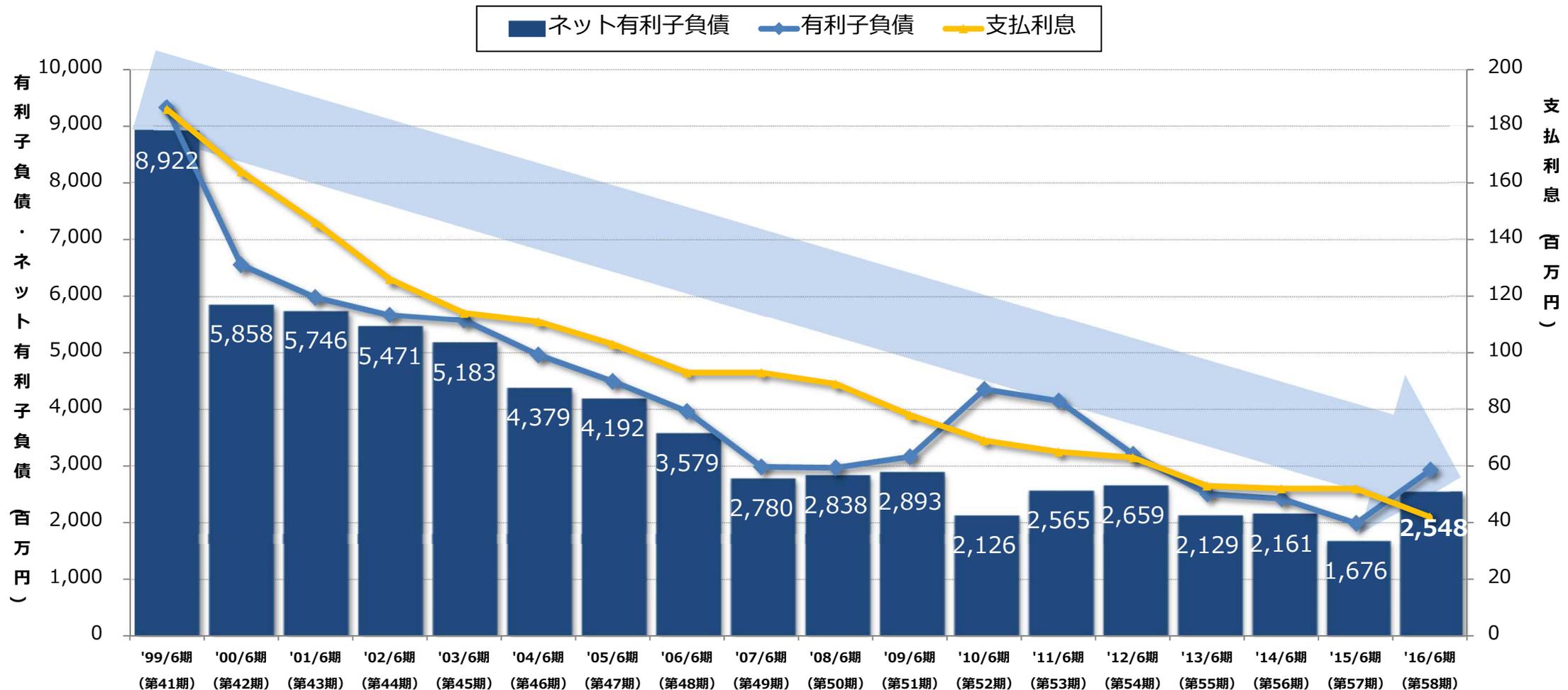
自己資本比率30%以上を維持 ROEは4期連続の上昇





ネット有利子負債と支払利息の推移

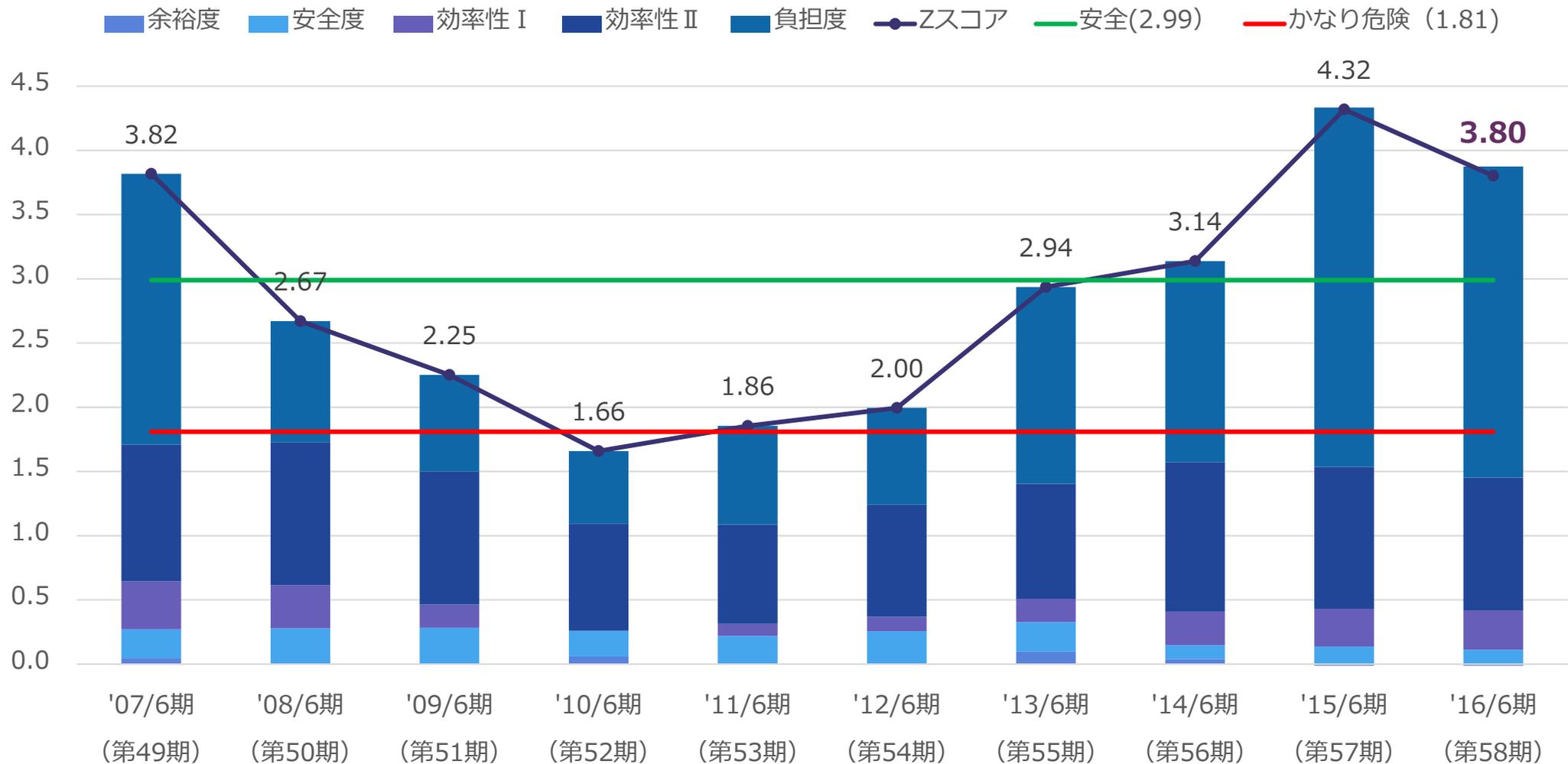
事業投資とのバランスを勘案したうえで 長期にわたり、財務を健全化





Zスコアの推移

事業投資による有利子負債増加の影響を受けてやや低下





純資産及び自己株式の推移

機動的な資本政策の遂行及び各ステークホルダーに対する利益還元のため、積極的に自己株式を活用

(単位:百万円)

		'15/6期(57期)	'16/6期(58期)	増減
株主資本		3,120	3,134	14
	資本金	1,010	1,010	—
	資本剰余金	1,134	1,279	145
	利益剰余金	2,660	3,078	418
	繰越利益剰余金	2,526	2,946	419
	自己株式	△ 1,684	△ 2,234	△ 549
その他有価証券評価差額金		35	4	△ 31
純資産合計		3,156	3,139	△ 16



キャッシュ・フロー計算書ハイライト

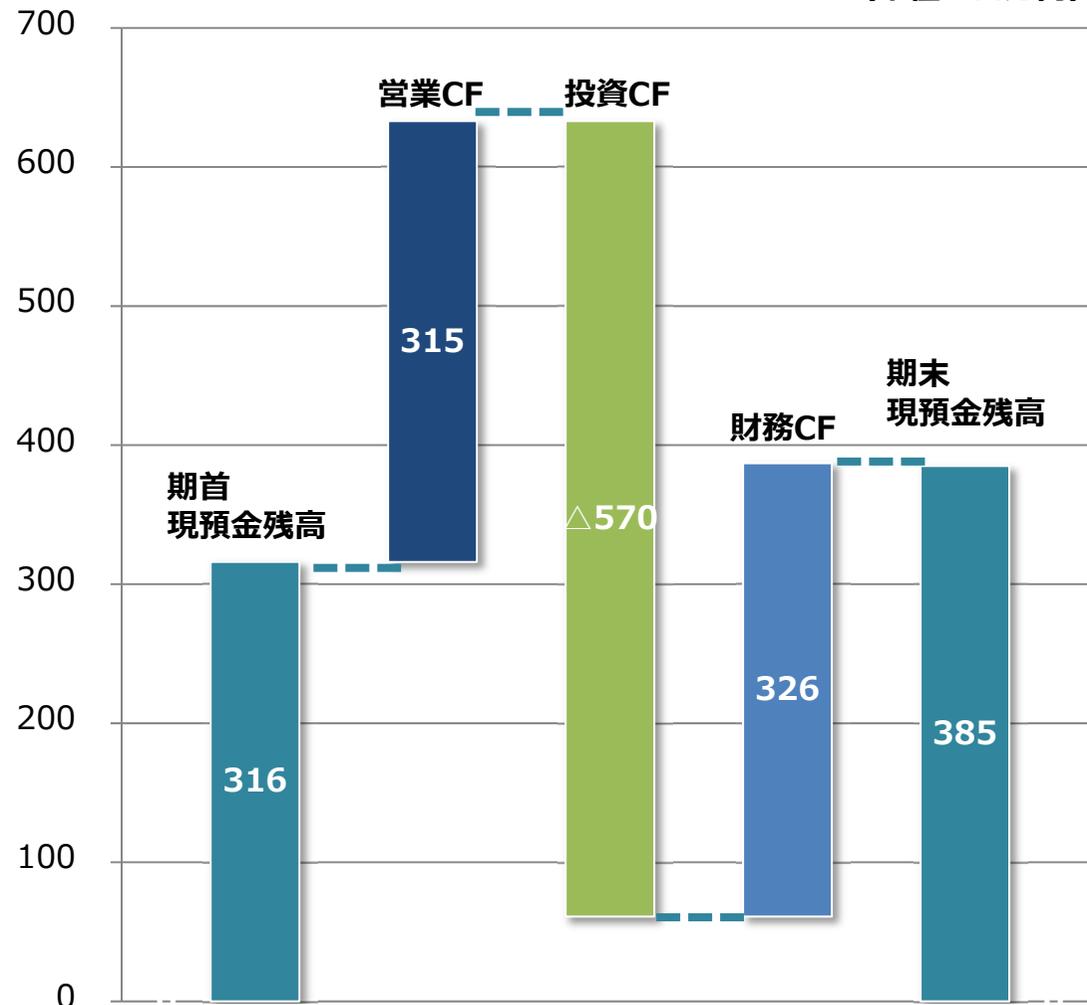
仕掛品の増加による営業CFの減少 将来に向けた新規事業開発投資などによる 投資CFの減少と財務CFの増加

(単位：百万円)	'15/6期 (第57期)	'16/6期 (第58期)
期首現預金残高	264	316
営業活動CF	700	315
投資活動CF	△200	△570
フリー・キャッシュ・フロー	499	△255
財務活動CF	△448	326
期末現預金残高	316	385

キャッシュ・フローの状況

2016年6月期（第58期）キャッシュ・フロー

(単位：百万円)



営業CF (315百万円)

- 税引前当期純利益 941百万円
- 減価償却費 233百万円
- たな卸資産（仕掛品）の増加（△は増加）
△556百万円

投資CF (△570百万円)

- 関係会社株式の取得 △131百万円
- 関係会社出資金の取得 △120百万円
- 投資有価証券の取得 △70百万円

財務CF (326百万円)

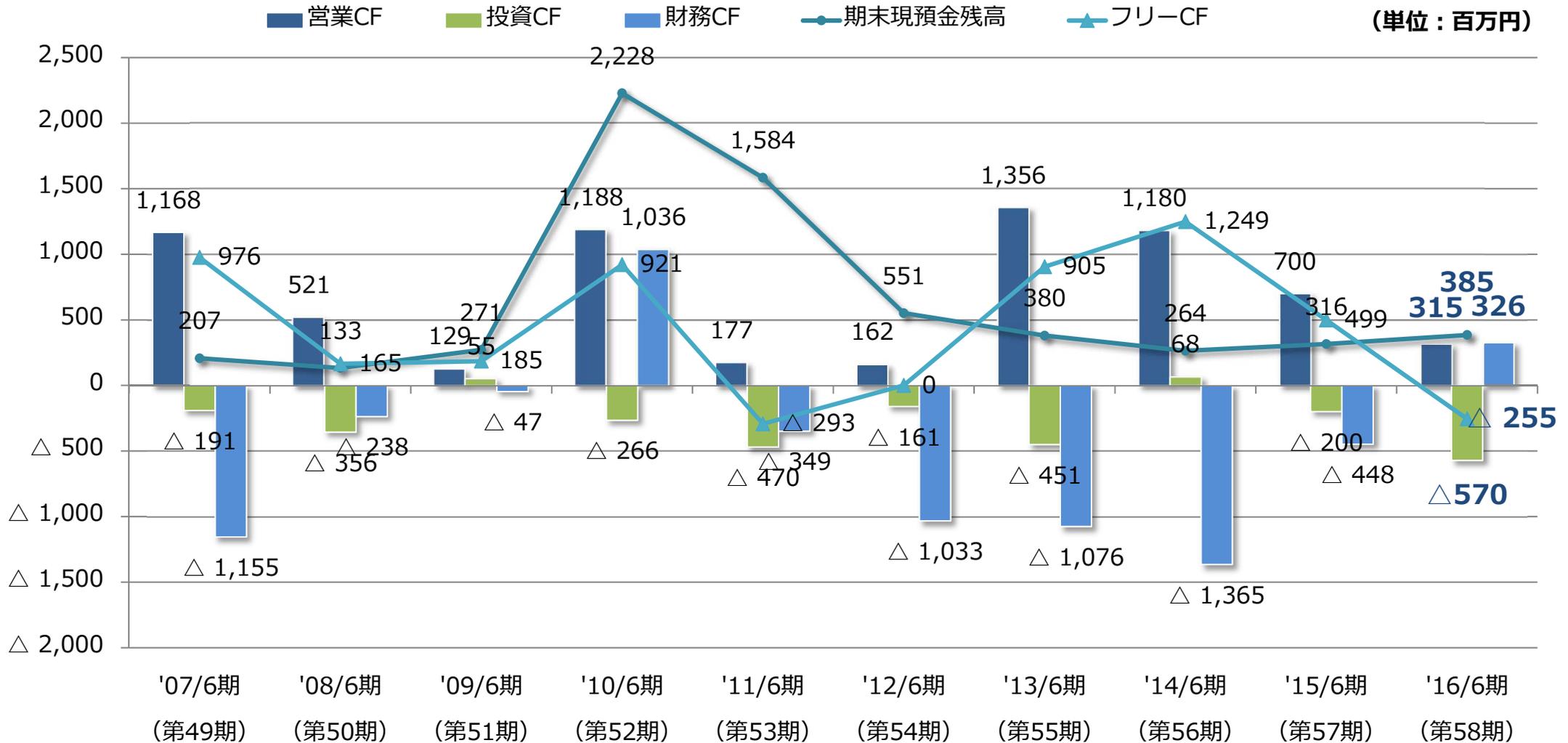
- 自己株式の取得及び処分 △344百万円
- 短期借入金の純減 △950百万円
- 長期借入金の純増 1,891百万円

フリー・キャッシュ・フロー △255百万円
(前年同期 499百万円)
インタレスト・カバレッジ・レシオ 7.6倍
(前年同期 13.6倍)



過去10年間のキャッシュ・フローの推移

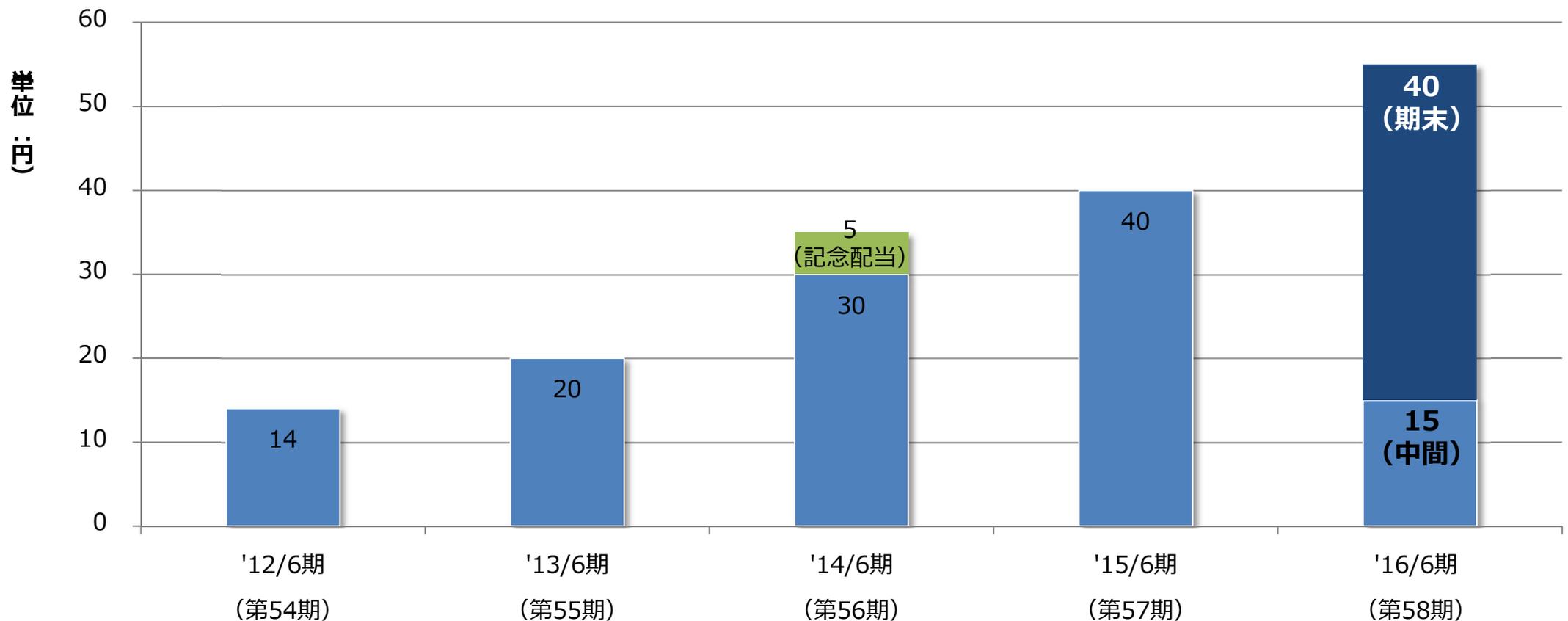
営業CFの拡大を目指しながら中長期を見据えた投資活動の活性化





一株当たり配当金の推移

中間配当15円の実施、期末配当40円（予定）
年間計画より10円の増配（予定）
中長期保有株主に対する継続的安定配当



2016年4月に発生した熊本地震に際して 2016年6月に熊本県教育庁「熊本文化財復興支援金」に 1億円を寄付

□ 目的

平成28年熊本地震により甚大な被害のあった、熊本城をはじめとする
県内文化財の修復プロジェクト管理状況の見える化推進

□ 寄付金の所管先

熊本県教育庁教育総務局文化課

□ 金額

1億円





2

セグメント別状況



報告セグメントの変更について（2016年6月期第1四半期より）

エンジニアリングコンサルティングとプロダクツサービスの2事業に変更

エンジニアリングコンサルティング

防災・耐震・環境評価コンサルティング
 建築物の構造設計
 ソフトウェア開発の要求定義・基本検討・研究試作
 製造・物流系シミュレーション
 マーケティングコンサルティング
 リスク分析
 マルチエージェントシミュレーション
 交通シミュレーション

など

システムソリューション

構造設計支援システム
 移動通信・モバイルネットワーク通信システム
 製造業向け営業・設計支援システム
 最適化・物流システム

などの開発

プロダクツサービス

建設系構造解析・耐震検討ソフト
 ネットワークシミュレーションソフト
 電波伝搬・電磁波解析ソフト
 製造系設計者向けCAEソフト
 マーケティング・意思決定支援ソフト
 統計解析ソフト
 画像認識ソフト
 クラウド関連サービス などの販売、コンサルティング、教育

エンジニアリングコンサルティング

統合

顧客の課題を抽出し
 解決策を総合して提案するため
 エンジニアリングコンサルティング事業と
 システムソリューション事業が
 より一層密接になってきている

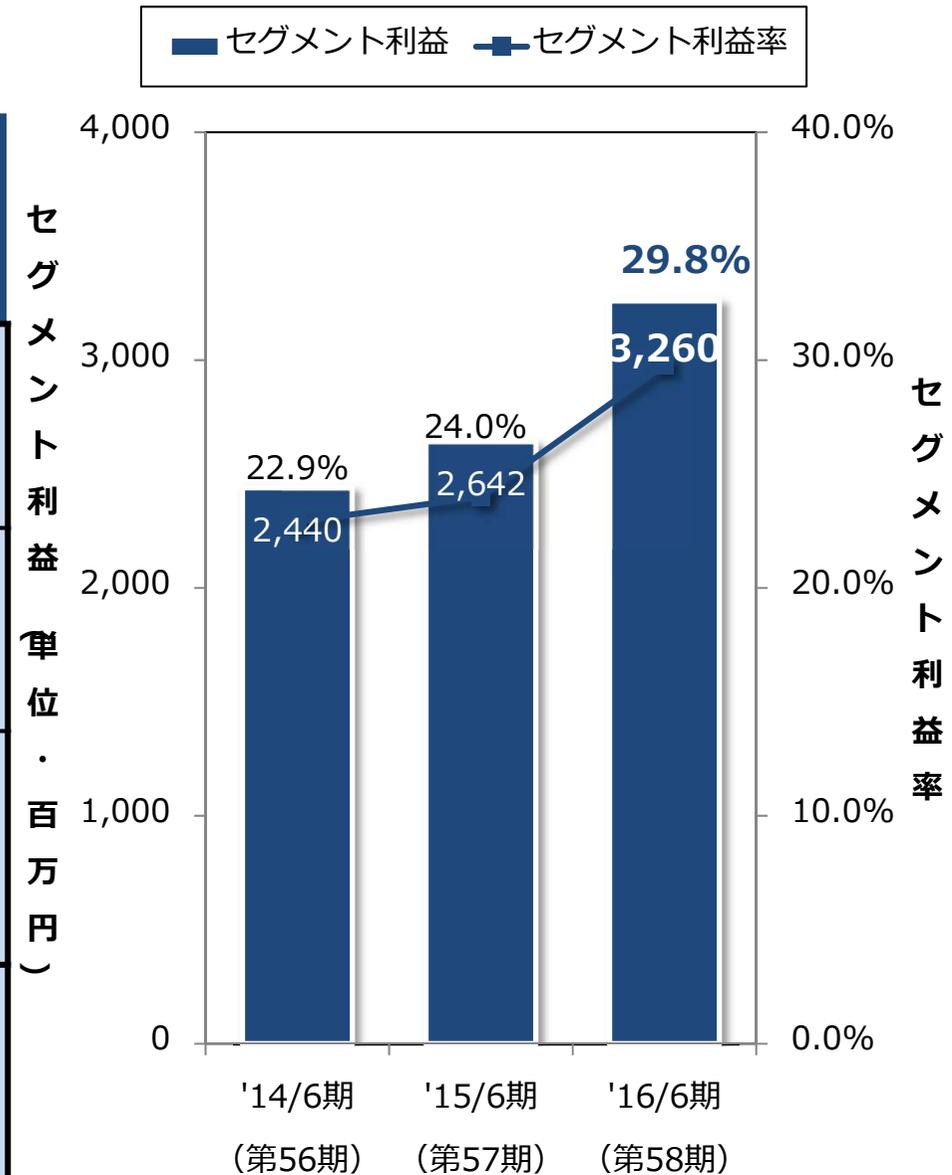
プロダクツサービス



セグメント合計

(単位：百万円)

	'14/6期 (第56期)	'15/6期 (第57期)	'16/6期 (第58期)	対前年同期 増減額 (増減率)
受注高	10,429	11,653	11,512	△141 (△1.2%)
売上高	10,648	11,003	10,947	△56 (△0.5%)
セグメント 利益 (利益率)	2,440 (22.9%)	2,642 (24.0%)	3,260 (29.8%)	617 (23.4%)
受注残高	3,965	4,615	5,180	565 (12.2%)



①エンジニアリングコンサルティング

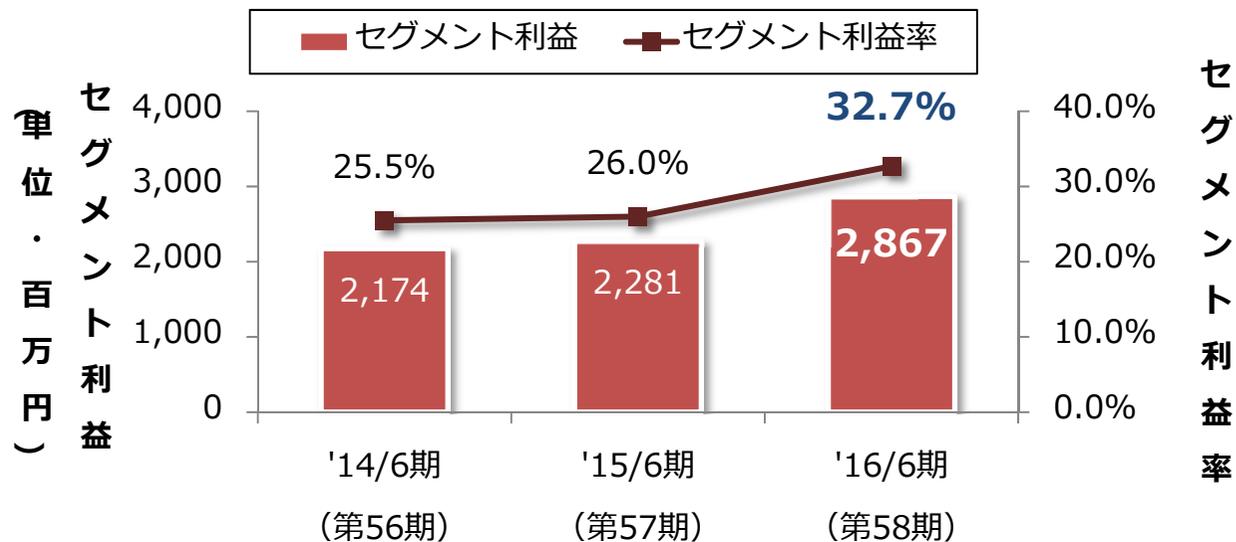
(単位：百万円)

	'14/6期 (第56期)	'15/6期 (第57期)	'16/6期 (第58期)	対前年同期 増減額 (増減率)
受注高	8,337	9,367	9,255	△112 (△1.2%)
売上高	8,519	8,768	8,780	12 (0.1%)
セグメント利益 (利益率)	2,174 (25.5%)	2,281 (26.0%)	2,867 (32.7%)	585 (25.7%)
受注残高	3,139	3,738	4,212	474 (12.7%)

- ◆ 防災・耐震・環境評価コンサルティング
- ◆ 構造設計支援システム
- ◆ 建築物の構造設計
- ◆ 移動通信・モバイル・ネットワーク通信システム
- ◆ 製造業向け営業・設計支援システム
- ◆ マーケティングコンサルティング
- ◆ 最適化・物流システム

業績分析

- 住宅業界をリードするトップ企業からの差別化に向けた投資に対応するシステム開発業務、構造設計コンサルティング業務、防災・減災のための解析業務、意思決定支援コンサルティング業務などが好調に推移



②プロダクツサービス

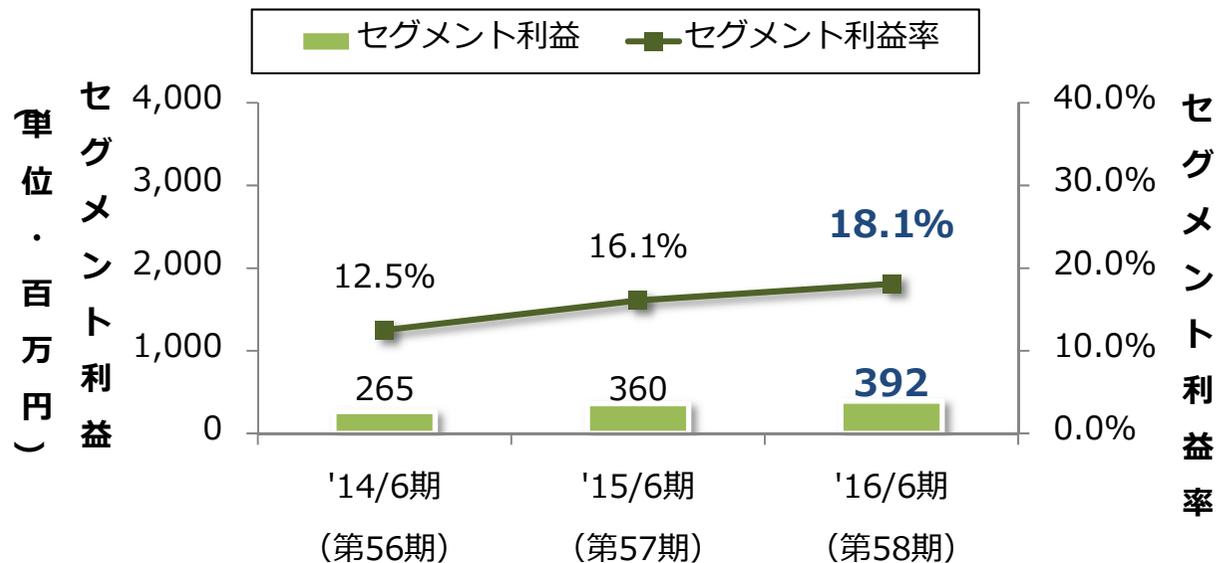
(単位：百万円)

	'14/6期 (第56期)	'15/6期 (第57期)	'16/6期 (第58期)	対前年同期 増減額 (増減率)
受注高	2,091	2,285	2,257	△28 (△1.3%)
売上高	2,128	2,234	2,166	△68 (△3.0%)
セグメント利益 (利益率)	265 (12.5%)	360 (16.1%)	392 (18.1%)	32 (9.0%)
受注残高	826	877	968	90 (10.3%)

- ◆ 建設系構造解析・耐震検討ソフト
- ◆ ネットワークシミュレーションソフト
- ◆ 電波伝搬・電磁波解析ソフト
- ◆ 製造系設計者向けCAEソフト
- ◆ マーケティング・意思決定支援ソフト
- ◆ 統計解析ソフト
- ◆ 画像認識ソフト
- ◆ クラウド関連サービス
- ◆ コンサルティング・教育トレーニング

業績分析

- 設計者向けCAEソフト、統合型粒子法流体解析ソフト、統計解析ソフト、製造業向けリスクマネジメントソリューション、クラウド関連サービスなどの販売が堅調に推移





3

中長期的視野に立った経営方針



Innovating for a Wise Future

- 工学知をベースにした有益な技術を社会に普及させることでより賢慮にみちた未来社会をステークホルダーの皆様と共に創出していきたい
- 社会を創造するプロセスを言い表すためInnovatingを使用



当社がきたい姿（ミッション）

Professional Design & Engineering Firm

学問知と経験知による知の循環から
生み出される、工学的手法に立脚した
ユニークな解決策（ソリューション）を
提供することによって高付加価値を
実現する組織



付加価値を向上させるための5つの「I」

I ntelligent

知を対価とするビジネスと社会貢献

I ndependent

何にもとらわれない自由な発想のできる場の設定

I nterdisciplinary

多様な学問分野の組み合わせ、融合

I nnovative

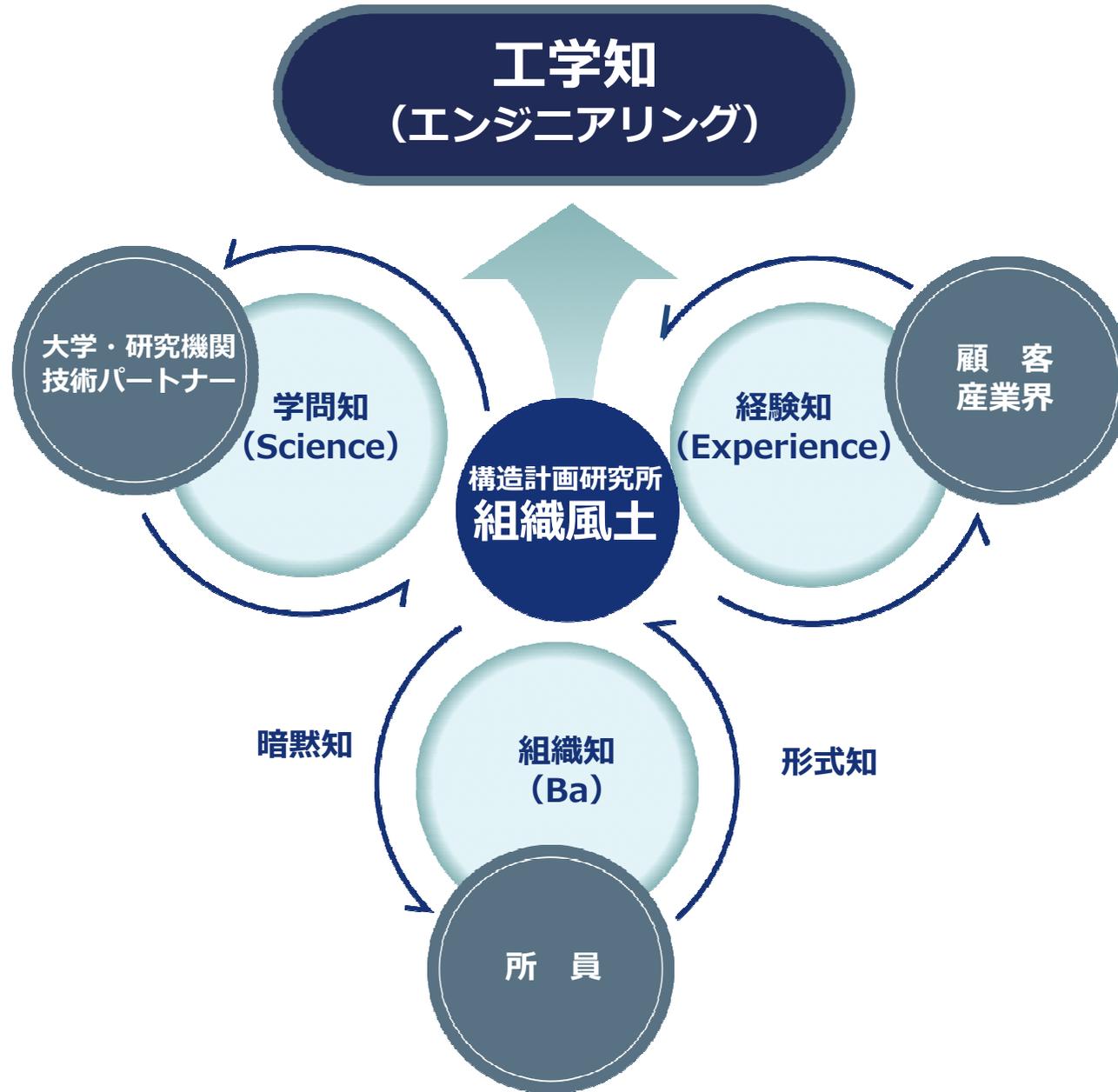
常に新しい事に対して挑戦する気概 風土 DNA

I nternational

異なる知を持つ海外パートナーとの連携

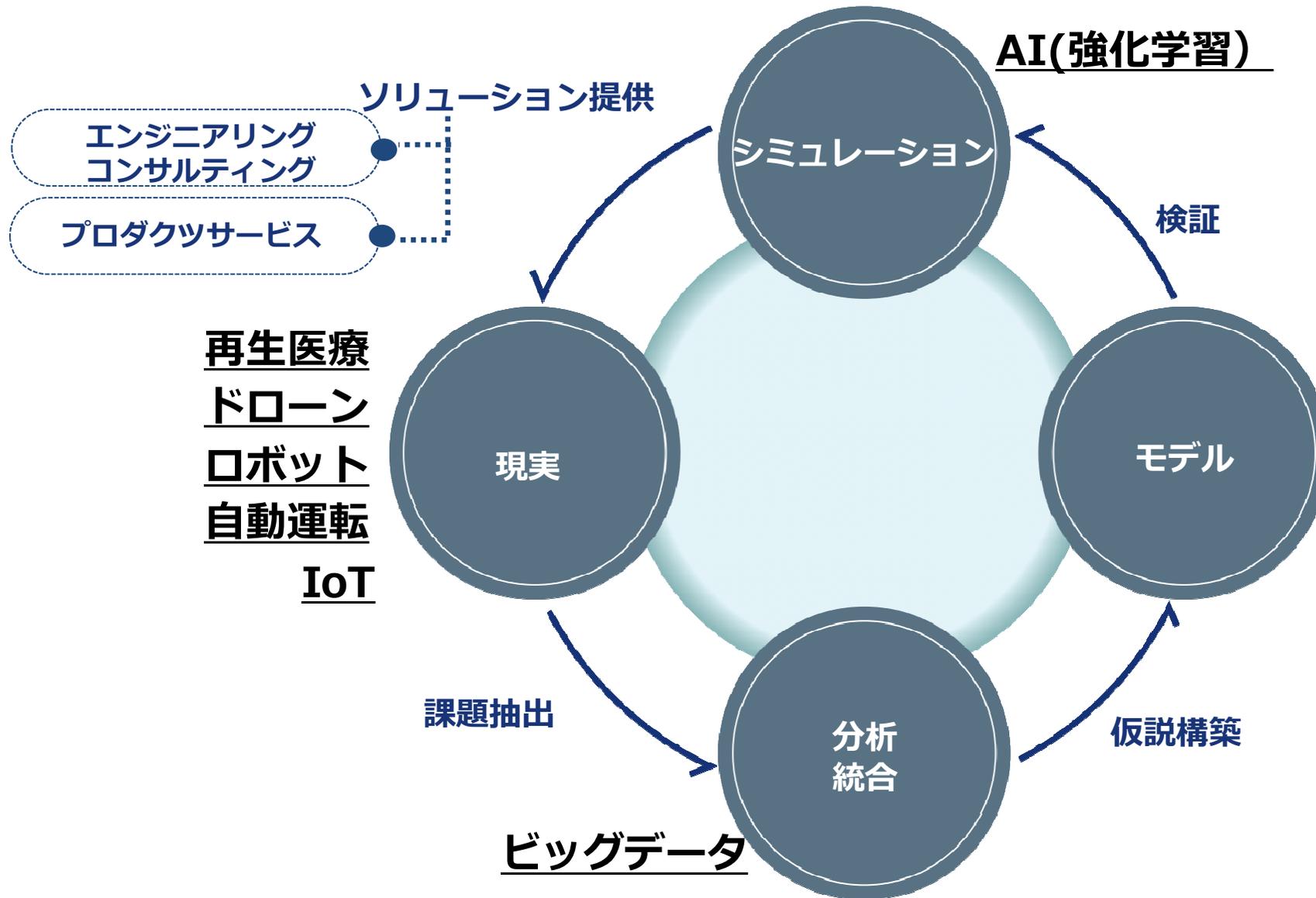


当社のビジョン 知の構造図



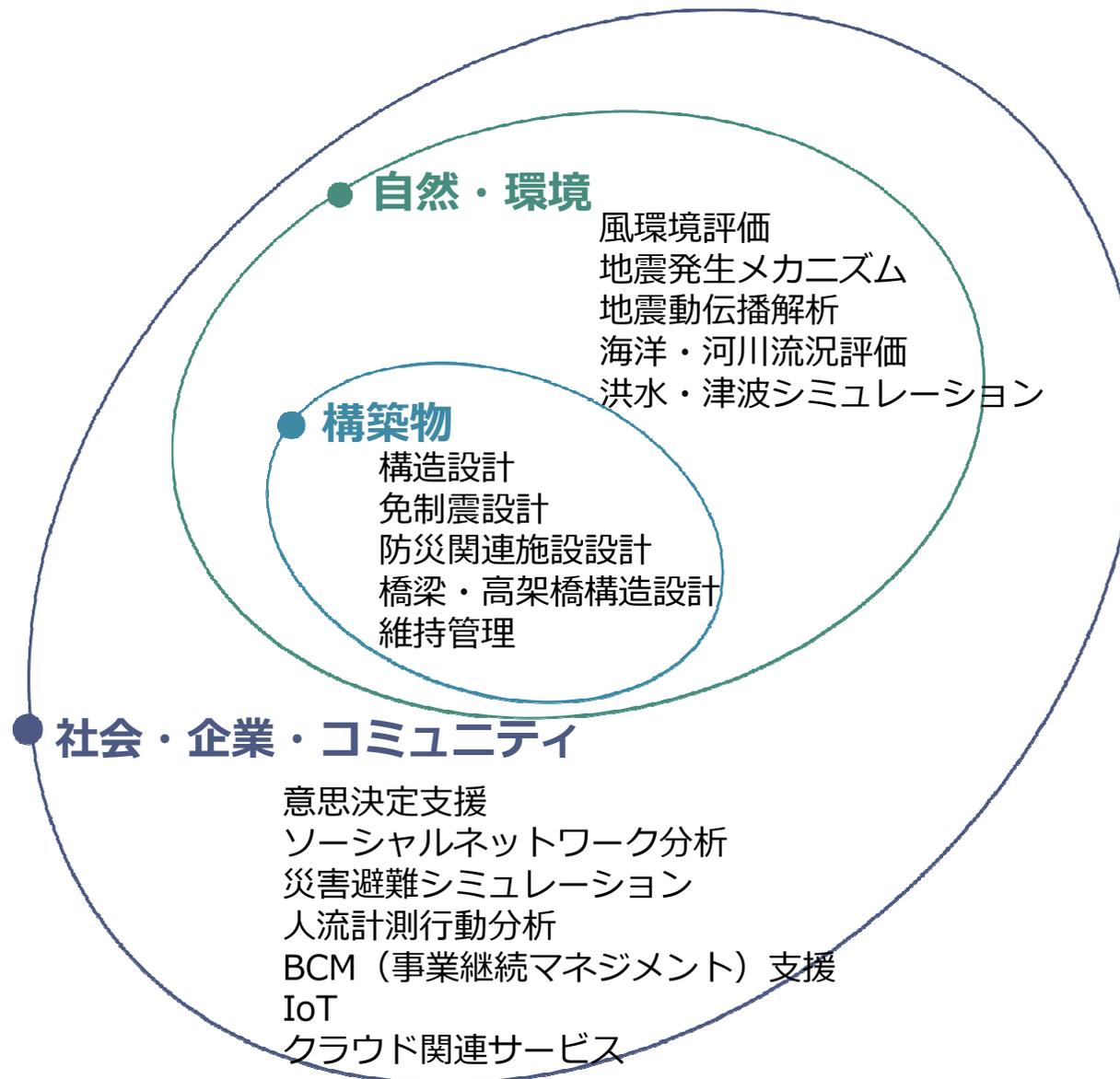


工学的アプローチの価値提供（モデリング&シミュレーション）





事業領域の拡大





総付加価値成長のシナリオ

1. 「事業開発投資」による
総付加価値成長

2. 「所員の成長」による
総付加価値成長

3. 「所員(仲間)の増加」による
総付加価値成長



※当社では営業利益に人件費とFRINGE BENEFITを加えた額を
総付加価値と定義し、各ステークホルダーへの分配可能原資を
表しています。

企業として持続可能な発展を続け総付加価値を向上させるために

提供するサービスや製品の品質確保

- 過去の失敗を教訓に品質に妥協しない
組織風土醸成

人物の育成

- 技術者、マネジャー、経営層それぞれ
が全社視点で思考し実践

新規事業開発投資と 海外への「Design&Engineering」展開

- 海外からの単なる技術展開に留まら
ない付加価値向上
- 日本での経験を活かした海外展開

知財戦略

- 成果物の知的財産確保
- 責任範囲の明確化



高品質高付加価値 = 高顧客満足度 過去の失敗に学び品質に妥協しない組織風土の醸成

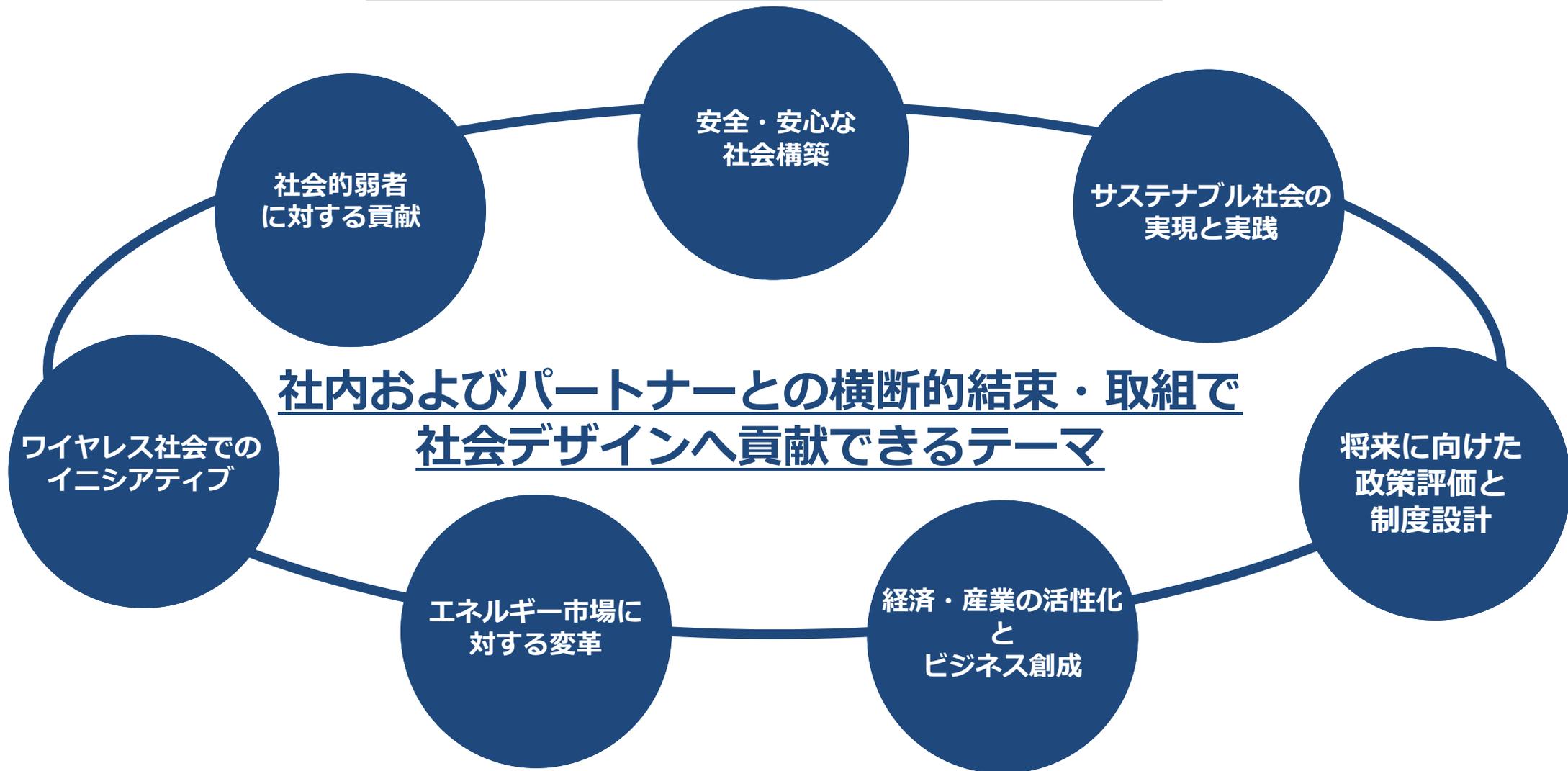
- 全社IMS（統合マネジメントシステム）運営
 - 全社で策定したIMS施策を各部門にて運営
 - フィードバック、改善を全社で管理
- プロジェクト管理状況の見える化推進
 - 経験知、組織知の伝承
- 重要プロジェクトレビューの実施
 - リスク・課題の共有と支援
- 技術者教育
- 契約内容に応じた品質管理



既存の高収益なエンジニアリングコンサルティング事業の安定的拡大
新規事業における顧客との信頼関係構築



保有する技術の整理、マーケティング調査の実施、人脈形成など
中長期を見据えた活動を着実に実施





KKE SINGAPORE PTE.LTD

- 登記 2015年1月9日 事務所設立 2015年7月1日
- 場所：Marina Bay Financial Center内
- 事業内容：ASEAN地域のマーケティング業務
- 資本金：S\$ 120,000



今後の展望

- 今後高い経済成長の見込めるASEAN地域において、**当社の技術および日本の技術を発信型**でビジネス展開
- **中長期的にKKE全体の成長を支える地域、拠点**として発展させていく
- **グローバルな人材採用**の拠点としての利用

日本郵船グループ、ウェザーニューズと 新会社Symphony Creative Solutions Pte. Ltd.を シンガポールに設立

□ 提携企業 当社

オペレーションズ・リサーチ技術、データ分析技術を駆使した最先端の
シミュレーション技術

日本郵船グループ（日本郵船株式会社、株式会社MTI、株式会社NYK Business Systems）
海運・物流事業で培ってきた知見、現場力、グローバルネットワーク

株式会社ウェザーニューズ
インフラネットワーク、気象予報技術

**海運・物流分野の次世代ソリューション提供へ
7月 自動車の陸上輸送管理・配送計画システム導入試験を実施**



再生医療の産業化支援 細胞製造のQCD (Quality, Cost, Delivery) 確立

医療機関

細胞培養施設

医療機関

細胞採取

搬送

組織・臓器製造

搬送

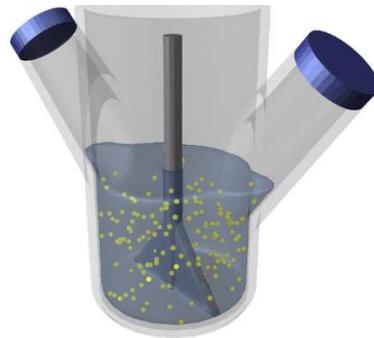
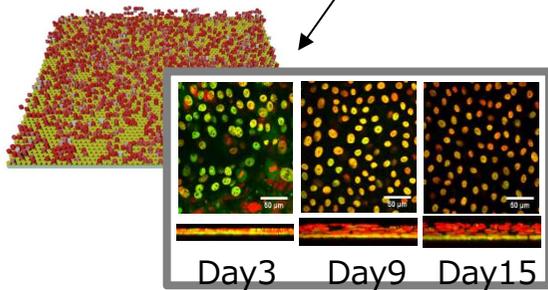
移植

課題

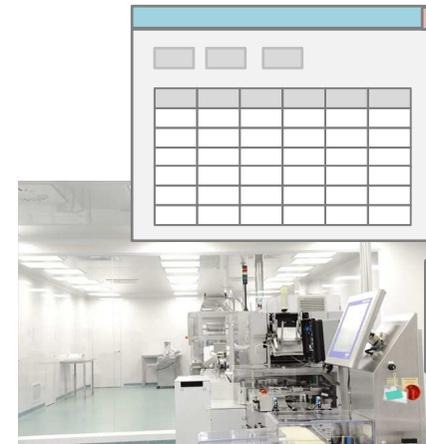
細胞の評価技術

- 搬送網の整備
- 振動、熱対策
- 資材の調達管理

- 自動培養装置の開発
- 品質管理
- 生産管理



生産スケジューラ開発 (澁谷工業)



KKE/ORTOOLBOX
(数理計算ライブラリ)

MASを使った細胞培養 の品質予測

(大阪大学共同研究)

粒子法による細胞培養器の 検証

(東京大学、大阪大学、藤森工業)

SendGrid

□ 米SendGrid社開発

クラウドベースのメール配信サービス

□ 企業の販促活動、マーケティング、CRMへの活用などを支援

- 到達性やセキュリティの向上、迷惑メール対策
→初期投資不要でクラウドのメリットを享受
- 全世界で配信されているメール（迷惑メールを除く）の1%がSendGridを通して配信

2013年12月より当社にて

日本市場のニーズに合わせたカスタマイズの提供など

日本向けサービスを開始

顧客の運用コスト削減・省力化
メールのビジネス利活用を強力に支援



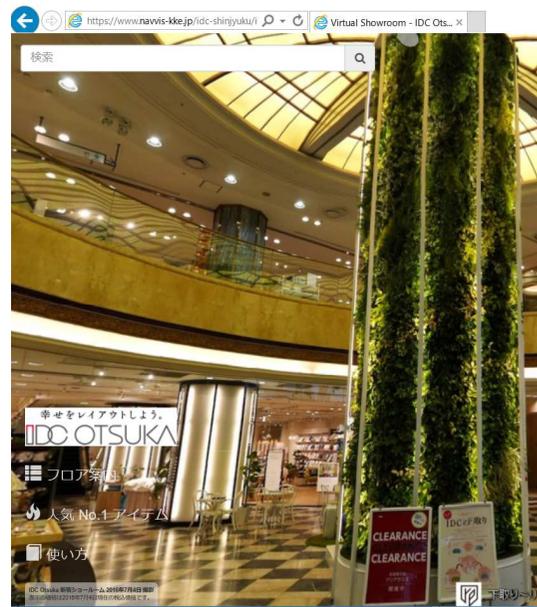


2015年10月ドイツNavVis社と提携

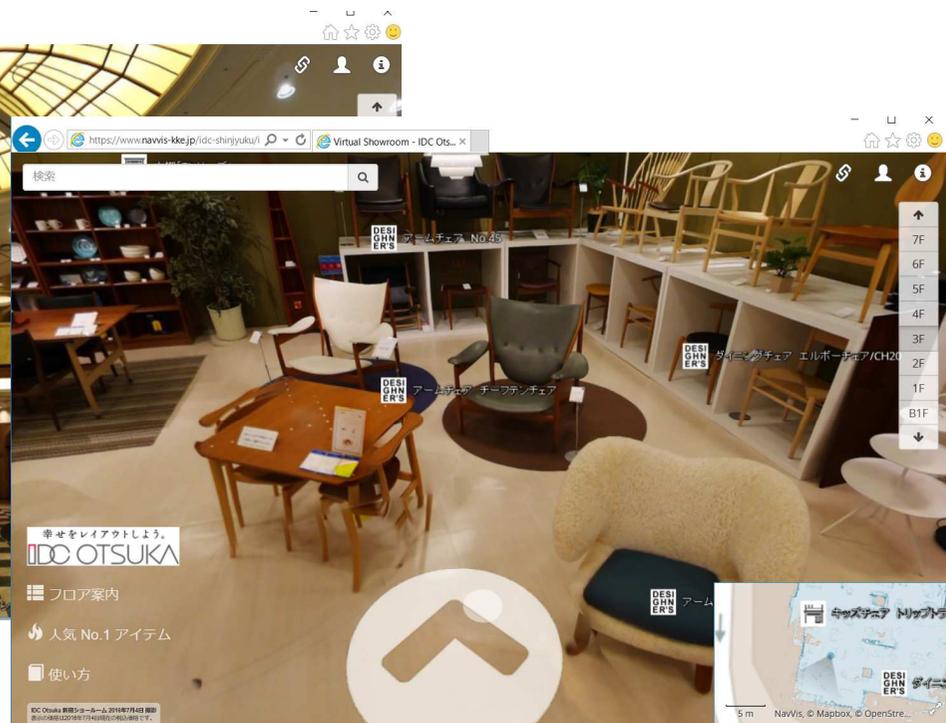
提携の概要

- 提携企業：NavVis GmbH（本社 独ミュンヘン）
- 業務提携開始：2015年10月
- 提携内容：
 - インドアマッピング&ナビゲーションプラットフォーム「NavVis」の日本市場における販売及びソリューション展開

空間を3Dマッピング
「NavVis」



株式会社大塚家具
バーチャルショールーム



<https://www.navvis-kke.jp/idc-shinjyuku/iv.html>



独Vitracom社

人の動きを徹底分析
「ピープルカウンター」



People
Counter

米LOCKSTATE社

どこからでも鍵をコントロール
「リモートロック」



RemoteLOCK

- ✓ 高精度で設置簡単の人数カウント用センサー
- ✓ POSデータや天気情報、属性推定カメラセンサーのデータも統合
- ✓ 業界トップクラスのコストパフォーマンス
- ✓ 国内外で2万件以上の実績

- ✓ 追加設備不要のWi-Fiスマートロック
- ✓ クラウド上でカメラ、室温計、人感センサーと一緒に管理
- ✓ Airbnbのホスト支援プログラムパートナー

これまで培ってきた様々な構築物における技術の複合的組み合わせ
建物の快適性・利便性を高めるIoT (Internet of Things) 分野へ



2016年2月当社と国立大学法人東京大学生産技術研究所で 社会連携研究部門を設置

未来の複雑社会システムのための数理工学

□ 期間

2016年2月1日～2020年3月31日

□ 担当教員

東京大学生産技術研究所 合原一幸教授

東京大学生産技術研究所 野城智也教授

当社からも研究員を派遣



未来の複雑社会システムの諸問題を解決するための基盤となる

数理工学の基礎研究

中長期の課題を視野に入れた応用分野のテーマ掘り起こし



けいはんな学研都市 ATRベンチャーNVCC投資事業有限責任組合

出資の概要

- 投資対象：ATR研究シーズや成果に関連するベンチャー企業
- 出資約束金額：2億円
- ファンドの期間：2024年6月30日まで
- 出資者：当社を含む複数社

- ✓ 技術交流に向けた会合の定期的実施
- ✓ ATR関連企業・ファンド投資先との技術検討会
(人位置計測、ドローン関連、脳科学など)
- ✓ ATR展示会への参加
- ✓ ファンド人脈によるイベント実現

今後の展望

事業の芽の発掘 ATR技術+当社内既存技術⇒高付加価値ビジネスの創出

- 当社マーケティング力を活かした**有望シーズのプロジェクト化・事業化**
- ファンド関連ベンチャー企業への人材派遣による **経営層の人材育成**
- エグジットした場合の**キャピタルゲイン**

ATR(株式会社 国際電気通信基礎技術研究所)



ATR 石黒 浩氏による
KKE Vision 2015 OSAKA基調講演



ファンド出資先の
株式会社 テレノイド計画

モバイル・インターネットキャピタル株式会社 イノベーション4号投資事業有限責任組合出資

出資の概要

- 投資対象：次世代情報通信に係る技術・サービスの分野、IT活用により成長が期待できる周辺分野 ex)IoT、AI、ヘルスケア、セキュリティ
- 出資約束金額：2億円
- ファンドの期間：2026年12月まで

- ✓ 数多くのベンチャー企業（年間500件程度）の取り組み状況について情報共有
- ✓ 投資家向けイベントMIC Dayへ参加し、様々なベンチャー企業のプレゼンテーション機会に触れる

今後の展望

当社の事業育成・拡大を目指す

- **事業成功のコツや育成方法**などの知見を獲得し、当社の更なる事業拡大に寄与
- **ベンチャー企業と当社の事業を連携**させることで、より高い付加価値を産み出す
- ベンチャー企業の評価実施や経営者派遣などにより**経営層の人材育成**



□採用

有益な技術を社会に役立てることのできるエンジニアリングコンサルタント

- 幅広い学問分野からの採用
- 海外採用 外国籍所員 31名、5.3% (2016年6月30日時点)
2017年内定 6名
- インターン制度の活用

など

2016年4月入社25名
(内4名は2015年12月入社)
2017年4月入社内定26名



□教育

所員が自律的に設定した目標を組織として様々な側面から支援

- 次世代リーダー層の育成
外部教育機関への所員派遣 野村マネジメント・スクール、東大EMP他
- 外国籍所員向け教育の拡充 所員間の異文化コミュニケーション

など

Stanford Silicon Valley
New Japan Project
(SSVNJ)



事業開発部
井下 貴仁

□ 目的

シリコンバレーと日本を結ぶ
多次元プラットフォームの形成

□ 当社の目指す研究テーマ

- シリコンバレーにおけるイノベーション
施策の日本企業、政府施策への適用可能性
- 人工知能技術によるビッグデータ解析結果
を活用した政策立案、実行の可能性検討

経済産業省

電力・ガス取引監視等委員会



創造工学部
米山 照彦

□ 目的

自由化された電力・ガスの市場健全性を監
視・維持

□ 当社の目指す研究テーマ

- 市場データの分析やモニタリングレポート
の作成



「Professional Design & Engineering Firm」として 知的財産を軸にしたビジネスの高付加価値化

- 事業の価値向上（対顧客、対社会）
- 新規技術の活用や国内外のパートナーとの連携によるビジネス化
- 社会の課題解決に役立つ技術のシェア・普及

施策方向

- ビジネス初期段階からの知的財産を意識したスキーム策定、契約、交渉
- 保有知財をベースとした、パートナーとのWin-Winの関係構築
- 責任範囲の明確化
- 暗黙知の形式知化などを促進する、知的・情報資産の管理活用施策の展開
- 過去の成功・失敗体験を含めた実績と経験を社内で共有、活用する文化の推進
- 法務と知財を一つの部門で統括 機動的かつ戦略的に施策を推進

（参考情報）

2016年8月時点の保有特許件数 58件

2016年8月時点の特許出願中発明件数 26件

2015年度 特許資産規模ランキング 新興市場における情報通信分野企業 第4位 (株式会社パテント・リザルトより引用)

研究開発、事業戦略と一体化して、ビジネスモデルと新技術の創造を促す



4

2017年6月期（第59期）の見通し



増収増益と配当増を目指す

(単位：百万円)

	'16/6期 (第58期)	'17/6期計画 (第59期)	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	10,947	11,500	553	5.0%
営業利益	1,007	1,100	93	9.2%
経常利益	943	1,040	97	10.3%
当期純利益	671	690	19	2.8%
配当金	@55円/株	@60円/株		



当社をめぐるステークホルダーへの対応





当社が目標とする経営指標

- 事業本来の収益力を表す **営業利益** の重視
+
人材を成長の源泉と考え、優秀な人材を確保するための **人件費およびフリンジベネフィット**
= 総付加価値

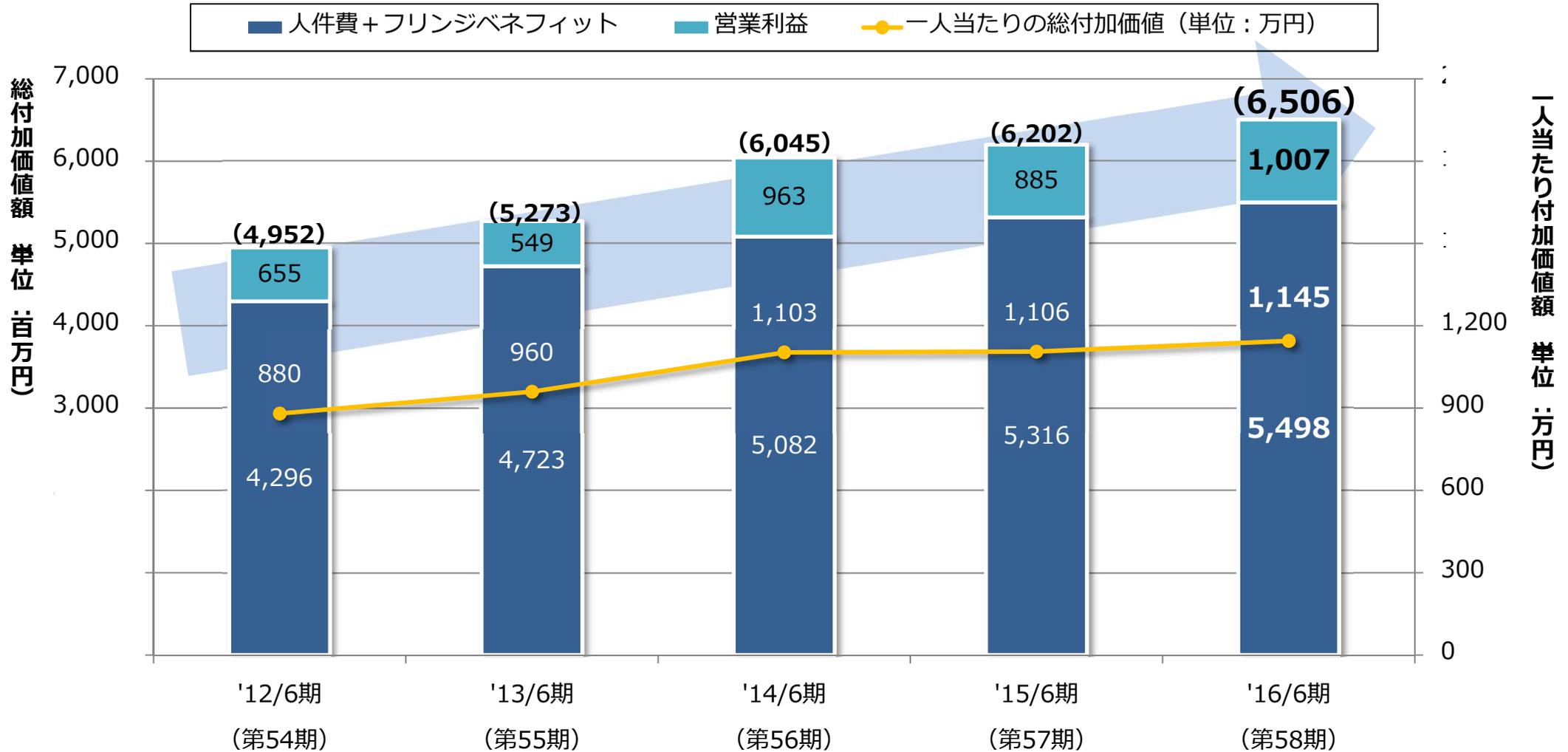
総付加価値を向上させることで企業として持続可能な発展を続ける
2016年6月期の総付加価値額は65億6百万円と過去最高
(2015年6月期は62億2百万円)

- **将来に向けた事業投資とのバランスを勘案** した
期末ネット有利子負債の考慮
- 高い利益率と有効な投資による **ROE** の向上
- 中長期保有株主に対する継続的安定 **配当政策** の推進



総付加価値額の推移

年率7%程度の総付加価値成長を目指す

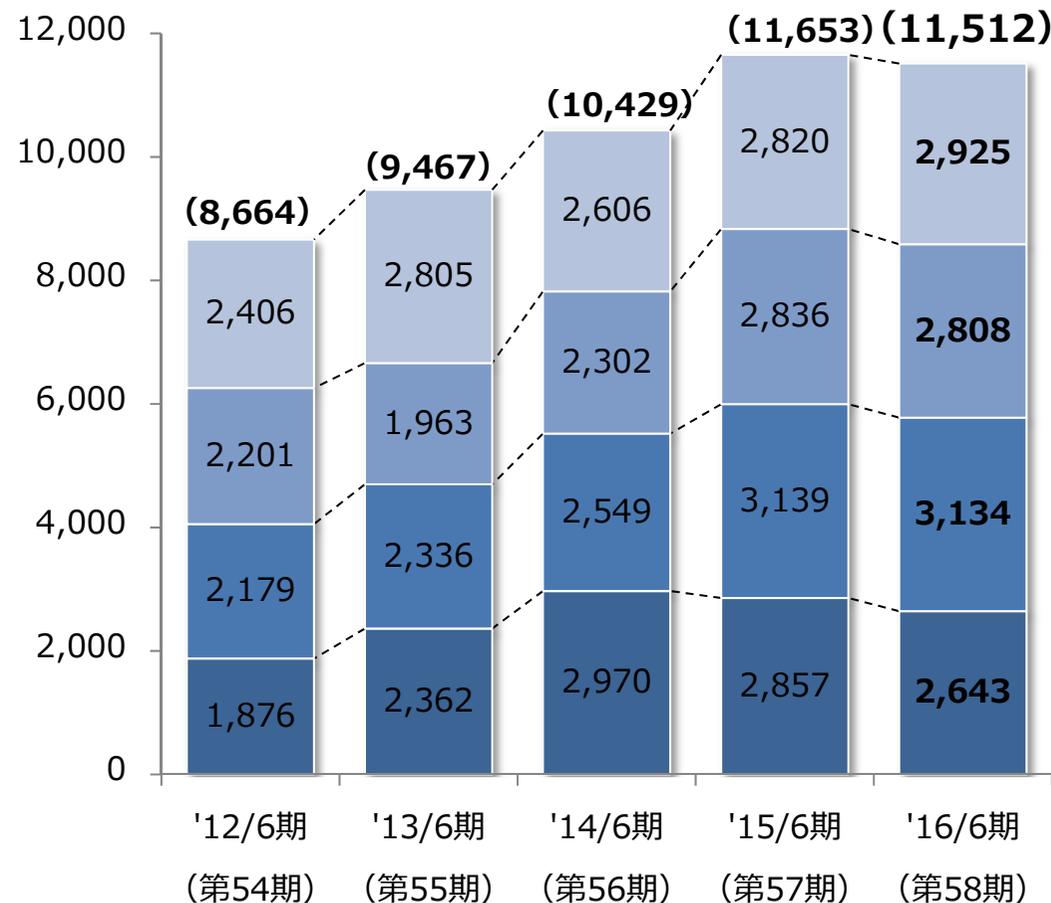




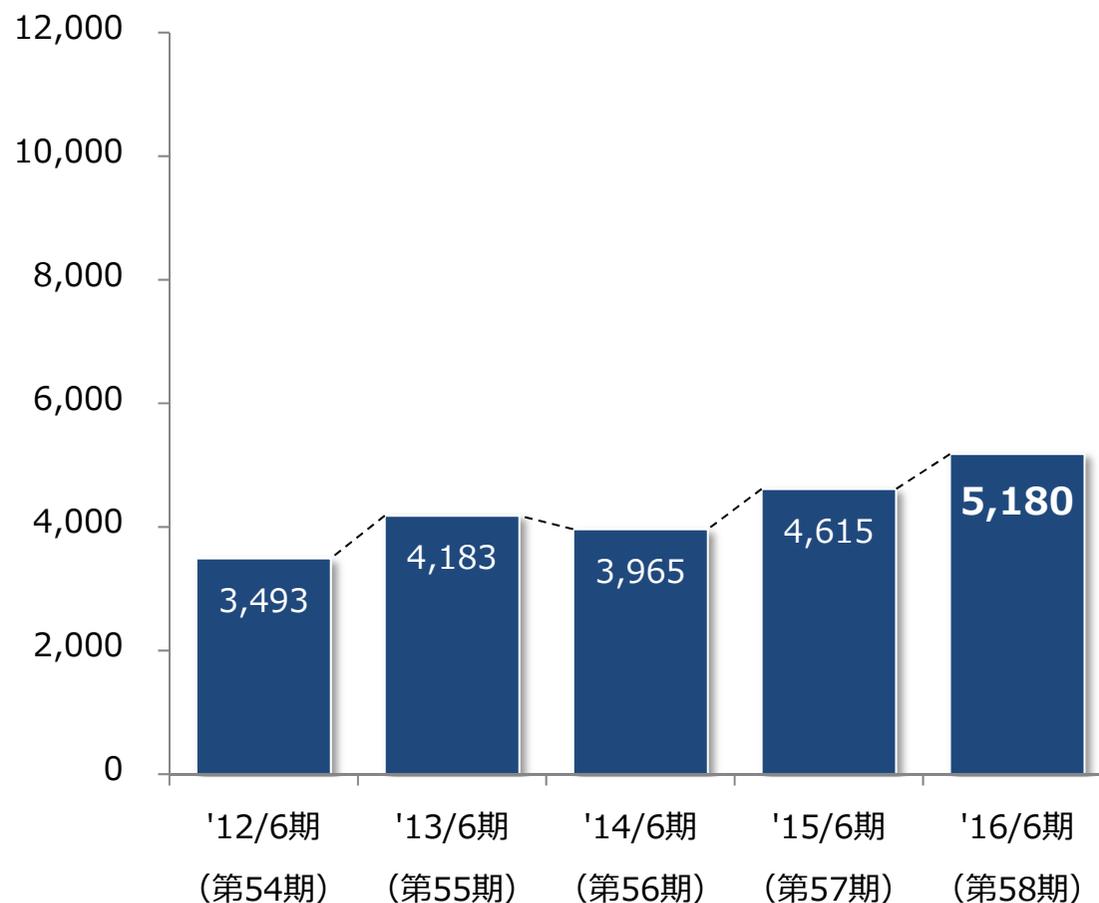
受注高実績と期末繰越受注残高

順調な受注実績を積み上げ、前期よりも多い受注残高でスタート

■ 1Q ■ 2Q ■ 3Q ■ 4Q



受注高 (単位 : 百万円)

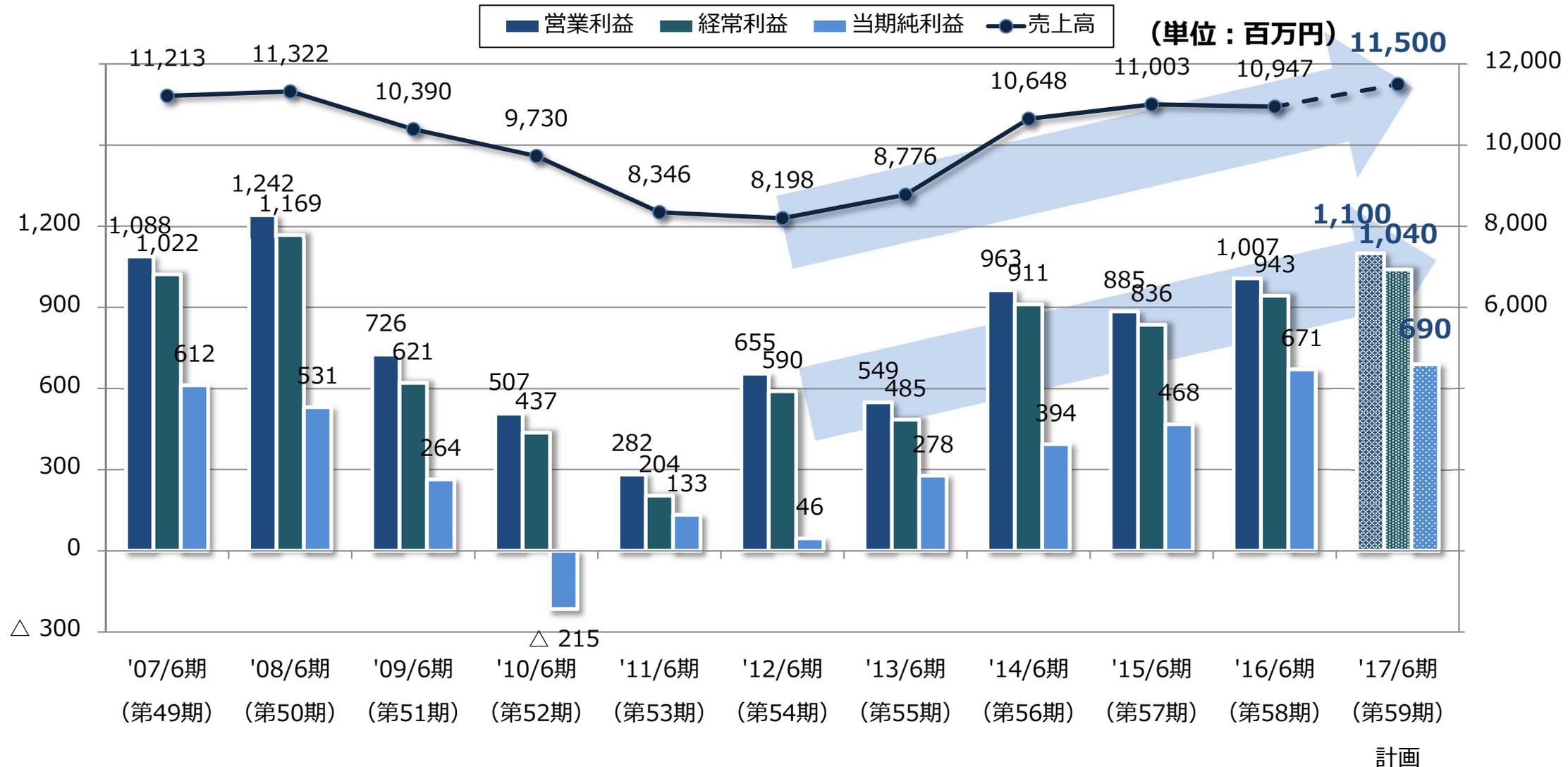


受注残高 (単位 : 百万円)



過去の業績推移と業績予想

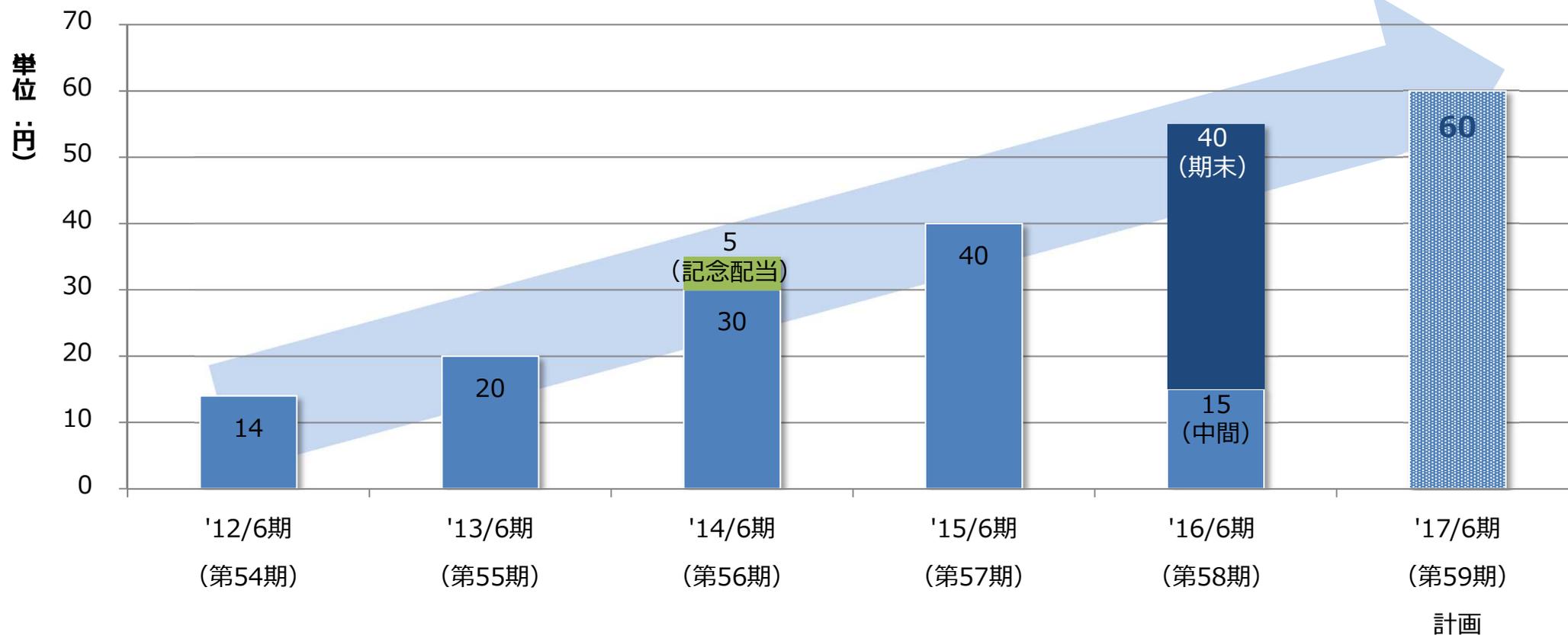
高繰越受注残高による良好なスタートで5期連続の増収増益達成へ





一株当たり配当金の計画

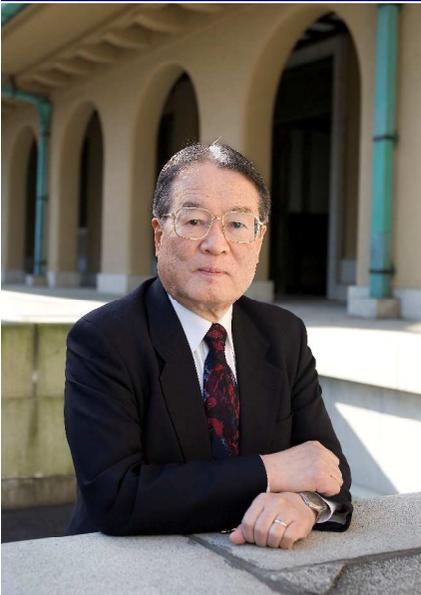
5期連続増配を目指す
適切な内部留保と事業投資状況を勘案しながら
中長期保有株主への利益還元を重視



2017年6月期(第59期)以降は四半期配当制度の導入を予定



全社ブランディングイベント KKE Vision 2016



● KKE Vision 2016 TOKYO

- 開催日：2016年10月26日（水）
- 会場：虎ノ門ヒルズフォーラム
- 基調講演：元防衛大臣 拓殖大学総長 森本敏氏
- 集客目標：1,000名

● KKE Vision 2016 FUKUOKA

- 開催日：2016年11月29日（火）
- 会場：グランドハイアット福岡
- 基調講演：
東京大学 生産技術研究所 教授
最先端数理モデル連携研究センター センター長
合原一幸氏
- 集客目標：400名



講演テーマ

- ✓ 安全・安心社会の実現
- ✓ 豊かな長寿社会に向けて
- ✓ 価値あるデータ活用
- ✓ サステナブル社会の実現
- ✓ 自然災害への備え

※テーマは今後変更の可能性がございます。予めご了承ください。

九州および福岡圏での活動活性化

- 九州地区のマーケティング活動の発展および新規ビジネスの創出
- IoTビジネスの発信地としての役割



博多駅直結JRJP博多ビル



支社機能の強化

- 中部営業所から名古屋支社へ改名し、名古屋・大阪・福岡の各地方拠点を中心とした営業/マーケティング活動の活性化へ
- 各拠点におけるマネジメント機能を強化 地方と東京のつながりを強化



お問い合わせ先

本日はお忙しい中お越しいただき
誠にありがとうございました

今後とも当社を何卒よろしくお願い致します

【お問い合わせ先】

株式会社構造計画研究所

広報・IR室(担当:小山、松本)

T E L : 03-5342-1040

F A X : 03-5342-1042

E-MAIL : ir@kke.co.jp

H. P. : <http://www.kke.co.jp>

*Innovating for a **Wise Future***